

ご乗車ありがとうございます。

千倉駅を後にした南総里見号は、左に黒潮流れる太平洋、右に安房丘陵、空にはトンビが舞う道を、房総半島最南端を目指して走ります。

左側の車窓に見える海岸線の荒々しい岩礁は、関東大震災により海底が隆起して出来たもので大正ベンチと呼ばれ、島だった野島崎もこの時に地続きになりました。

右側の車窓に目を凝らしますと、安房丘陵の山際から海岸まで地形が大きく四段に階段状になっていることが分かります。数千年の間に起きた四度の大地震により、海底が隆起した隆起段丘で、壮大な地球の活動を実感出来ます。

安房国には古代より格式の高い神社もいくつかありますが、安房白浜駅周辺では過酷な自然の中で生きた人々の純朴でひたむきな思いを感じる神社仏閣に出会える事でしょう。

また戦国大名里見氏の発祥の地として関連の史跡も残っています。

春の訪れが早い南房総では、12月～3月にかけてポピー、ベネジウム、金魚草などの花摘みが最盛期で、伝説によると95代花園天皇の娘が戦乱を逃れ、和田浦に漂着。その菩提を弔って花を植えたことが、花作りの始まりとされています。

夏の海水浴や新鮮な海の幸など自然の恵みにあふれる安房白浜駅には、どうぞ南総里見号をご利用下さい。

# 南総里見号

## で行く バスの旅

### 安房白浜駅編

塩浦の不動滝

弘法大師の茅井戸  
南房総市有形民俗文化財  
今も青々とした水が湧き出ています。

青根原神社  
里見氏二代成義公の墓所。  
この碑は、天保3年に建てられました。最近の研究では存在が否定的です。

三峰山杖珠院  
戦国大名里見氏初代の義実公の墓所。又伝説では嵐が近づくとき、源氏の魂が釣鐘を鳴らすと云う。

青木観音堂  
びんずる尊者座像は、永禄6年(1563)の造立。  
南房総市指定有形文化財

実浄入定塚  
安政4年(1857)、疫病の流行から村人を守るため、実浄上人は、ここに入定しました。合掌。

タカ目  
タカ科  
全長は、60~65cm  
翼を広げると、150~160cm。  
近くで見ると、かなり大きく感じます。  
鳥天狗の元祖とか。

房総半島最南端のベンチ。雄大な太平洋を眺めながら、何を思っていますか。気分が晴々としてます!!

野島崎灯台  
高さ29m。初点灯は、明治2年(1869)。文明開化の灯りでした。約31km先まで光が届きます。

#### 隆起段丘断面図



種さや